

社会情報論 I

科目ナンバリング SOC-105

【IV】 選択 2単位

吉野 ヒロ子

1. 授業の概要(ねらい)

「社会情報論」とは学際的な研究領域で、ビッグデータの分析など情報科学と社会科学が融合した学問です。この授業では、『よくわかる社会情報学』（西垣通・伊藤守編著）を中心に、社会情報論の社会科学的な側面から、現在の社会における情報のあり方を解説します。

2. 授業の到達目標

社会と情報のあり方の変遷を把握し、説明できる

3. 成績評価の方法および基準

レスポンスペーパーの内容と提出状況によって足切りを行い(5回以上未提出であればDまたはD2)、LMSで行うミニテストの累計点(100%)で判断します。

4. 教科書・参考文献

参考文献

西垣通・伊藤守編著 『よくわかる社会情報学』 ミネルヴァ書房

吉野ヒロ子 『炎上する社会』 弘文堂

5. 準備学修の内容

- ・個々の課題についてはその都度教場で指示します。
- ・ソーシャルメディアの動向などに関するニュースや記事を日々チェックし、記録しておく習慣をつけてください。

6. その他履修上の注意事項

- ・毎回レスポンスペーパーを課します。書くのが苦にならない人、書くのが苦手だが改善したい人を歓迎します。
- ・レスポンスペーパーのうち、興味深いものは次回講義冒頭で、個人情報は伏せて紹介させていただきます。

7. 授業内容

- 【第1回】 社会情報学の成立
- 【第2回】 ネオ・サイバネティクスと生命圏
- 【第3回】 『グーテンベルクの銀河系』
- 【第4回】 『「声」の資本主義』
- 【第5回】 コンピュータのつくる言語映像圏
- 【第6回】 ソーシャルメディアが作り出すコミュニケーション空間
- 【第7回】 『炎上する社会』
- 【第8回】 社会意思決定と情報
- 【第9回】 『ネットは社会を分断するのか』
- 【第10回】 社会システムへの応用(1)
- 【第11回】 社会システムへの応用(2)
- 【第12回】 デジタル化される文化
- 【第13回】 法・政策と情報
- 【第14回】 近未来の社会と情報技術
- 【第15回】 情報過程の歴史的階層性(オンライン・GW期間中に実施)